

黒毛和種肥育牛への飼料用米ソフトグレインサイレージ 多給技術の開発

(研究期間：平成22年～26年度)

研究の背景・ねらい

飼料価格が高止まりしている中、将来にわたり安定的に畜産経営を行っていくためには、購入飼料に過度に依存せず、地域内で飼料自給率を高めていくことが重要である。

飼料用米は、本県の豊富な水田を活用でき、稲作農家にとっては作りやすく、畜産農家にとっては飼料価値の高い作物として、今後の普及・拡大が期待される。

このため、肥育牛において、新たな技術である飼料用米ソフトグレインサイレージ（飼料用米SGS）の多給技術を開発し、秋田の特色を生かした飼料自給率向上を図る。

* 飼料用米ソフトグレインサイレージ：稲の粃の部分だけを収穫・密封し、乳酸発酵させた飼料

研究の内容

黒毛和種肥育牛へ濃厚飼料の代替として肥育全期間飼料用米SGSを40%以上給与し、試験牛の発育状況、健康状況、産肉成績等を評価検討し、健康に配慮した飼料用米多給技術を開発する。

○育成試験

6ヶ月齢の黒毛和種育成牛を用い濃厚飼料の代替として飼料用米を30%、40%、50%代替した給与試験を実施する。

年度／項目	濃厚飼料代替率	SGSの形態	試験期間
H22	30%	粃米	90日
H23	40%	粃米	120日
		膨軟化粃米	
H24	50%	粃米	120日
		膨軟化粃米	

育成期における飼料米代替給与量の限界は？

粃米と膨軟化粃米のSGSに採食量に差はあるの・・・？

* 膨軟化粃米：プレスパンダーで水分を加え爆砕された粃米

○肥育試験

肥育素牛に濃厚飼料の代替として飼料用米を40%、50%代替した給与試験を実施する。

年度／項目	濃厚飼料代替率	品種	SGSの形態	試験期間
H22～24	40%	F1	粃米	540日
	50%			
H23～25	40%	黒毛和種	粃米	600日
			膨軟化粃米	
H24～26	50%	黒毛和種	粃米	600日
			膨軟化粃米	

肥育期における飼料米給与量の限界は・・・？



期待される効果

飼料用米SGS形態の肥育飼料が開発されるとともに、肥育牛現場での飼料用米の活用が進み、飼料自給率の向上につながる。